詠む広場

毎日俳壇

井上　康明　選

耕して土黒々とかがやける
八街市　山本　淑夫

△評▽春、耕された土は黒くてらてらと光る。その地味は豊かにして濃く、秋の収穫は、豊作になるに違いない。

霜柱関東平野膨らみぬ
北本市　萩原　行博

△評▽霜柱が立つ関東平野は、美しく膨らんで見える。霜が作物に害を及ぼす不安もはらみながら。

風音の誘ふ眠り冬果つる
甲府市　清水　輝子

オリオンの枡の中より雪降れり
福山市　佐藤　育子

梅ふふむ宇宙工学研究所
潮来市　萱原　綾川

寒夕焼け丹沢山塊鋼なす
東京　山口　照男

靴に雪入りしまなる下校の子
印西市　五十嵐栄子

墓標にはシベリアの文字冬菫
東京　山口　治子

村の屋根春雪を乗せ相寄れる
姫路市　板谷　繁

天を衝く甲斐摩利支天桃の花
川越市　益子さとし

片山由美子　選

庖丁のよろこぶ音や冬菜切る
平塚市　高橋　佳代

△評▽小松菜をざくざく切って炒めものにという場面だろうか。音を言っているが、あざやかな葉の緑も目に浮かび、すがすがしい。

まづメール開いて仕事始かな
神戸市　末永　拓男

△評▽昔とは様変わりしたオフィス風景。仕事始めも休みの間に届いたメールのチェックから。

冬晴や風の出て来し午後三時
小平市　齋藤　幸枝

四日はや通院の杖かつかつと
川崎市　露木　秋子

咳の子を抱きてしらじら明ける窓
那須塩原市　柴田　道子

お使ひの子にマフラーを二重巻き
和歌山　桑原　里美

借景のビルの高さや浮寝鳥
藤沢市　青木　敏行

空いっぱい路地いっぱいの寒茜
高槻市　黒田　豊子

黒潮の潮目くっきり初景色
和歌山市　福本　秀昭

着ぶくれて採血の腕差し出しぬ
松山市　井上　保子

小川　軽舟　選

探梅や言葉少なに戻りたる
神奈川　新井たか志

△評▽どうやら梅はほとんど咲いていなかったらしい。体は冷えるし気分も沈んだ。景気づけに一杯やって帰ろうか。

三姉妹寄りて七福神詣
佐倉市　木村　弘美

△評▽三から七へ、数字が効果的に使われている。3姉妹でさぞかしましかったことだろう。

羊日やハローワークに人の列
大津市　横川　和醸

船笛に教会の鐘年明くる
神戸市　松田　薫

春立てり脈とる女医の腕時計
下野市　石井　光

神木の大樟仰ぎ年新た
羽生市　小菅　純一

グローブの匂ふ部室や日脚伸ぶ
名古屋市　山内　基成

月はまだ高く残れり初明り
小田原市　林　梢

さざんかや潮騒遠き精神科
浜松市　尾内甲太郎

小春日や矯正展の文机
狭山市　野田　修

西村　和子　選

問ひ詰めぬことが良策みかん剝く
加古川市　伏見　昌子

△評▽家庭内の問題であることを季語が語る。気楽にみかんでもむきながら、だんだん核心に触れてゆく大人の知恵。

春きざす風に散らばる鳥の声
宍粟市　宗平　圭司

△評▽寒い間は直線的だった鳥の声が、散らばって聞こえることに春の兆しを実感する。

若者は走る我らは初仕事
安城市　杉浦　陽子

世の大事聞き漏らしさう耳袋
藤枝市　山村　昌宏

常のこと常にこなして寒に耐ふ
新居浜市　今井　忍

紅ひきて何処へもゆかぬ久女の忌
熊本市　加藤いろは

みな声を落して見入る寒牡丹
唐津市　河児　紀子

冬ぬくし午後開店の古本屋
三重　瀬川　令子

どんどの火松に燃え付き燻りをり
横浜市　斎藤　山葉

北国の友へ一筆寒に入る
いわき市　四宮　公男

うたは奏でる　愛の愚か、エラー　染野太朗

・おろおろと「オレオレ」の声に騙さる　蔑してならず愛の愚かを
黒木三千代

所謂「オレオレ詐欺」は親が子を思う心に付け入った騙りであるわけだが、この一首は騙す側でなく騙される側の内面に注目し、その上で騙される理由を「愛の愚か」であるとして、それをさげすむなと訴える。「愛の愚か」という言葉にハッとする。親子間に限らず愛情というものはたしかに、視野を狭くし判断力を鈍らせる場合もあるのだと気づかされる。しかしそれも愛ゆえなのだ。そう理解したあとはこの一首を超えて、愛情の行き交うさまざまな関係に思いを馳せることができる。まるで箴言のようだ。

短歌に限らずそもそも言葉というものには、私たちのものの見方・視点を固定してしまう性質があるが、まさにその同じ性質が、凝り固まった視点を一瞬にして解いてくれることがある。

・ちひさくてつよい光が手の中にあつてあなたを番号で押す　目黒哲朗

箴言風の言葉とは異なるが、こんな歌もおもしろい。「ちひさくてつよい光」とはおそらくスマホの画面を指す。その言い換えが「あなた」を「光」そのものにしてしまう。自分を明るく照らし出す、そしてときに自分から伸びる濃い影の存在にも気づかせる「あなた」。

・ショートケーキを箸もて食し生誕というささやかなエラーを祝う　内山晶太

この世に生を受けること自体を「エラー」だという。人生のままならなさへの諦念が寒々とした祝福を導いている。

（そめの・たろう＝歌人）